

□修正内容

| No. | 影響範囲 | 内容 |
|-----|---------------|---|
| 1 | V33.00～V35.02 | マルチNAT利用時にフラグメントパケットが正常に転送されない場合がある。 |
| 2 | V33.00～V35.02 | 以下の場合にスケジュール機能が指定時刻に動作せず、指定時刻以外の時刻に実行されることがある。 scheduleコマンドで指定した実行時間の1～90秒前に時刻の設定、schedule機能定義を変更する。 addactコマンドで指定した実行時間の1～90秒前に時刻の設定、schedule機能定義を変更する。 |
| 3 | V33.00～V35.02 | テンプレート情報の動的VPN環境において、IKE共有鍵の設定がdynamic以外の設定になっていても、config設定済のIKE共有鍵ではなく動的VPNサーバから配布された共有鍵が使用される。 |
| 4 | V33.00～V35.02 | テンプレート情報を使用した動的VPN環境にて、次の操作を行うと装置が再起動することがある。 ・VPNセッション確立中の拠点情報(IPsec/IKE接続に影響しない設定情報)を動的設定変更し、その後このVPNセッションを解放・再接続する。 |
| 5 | V35.00～V35.02 | Aggressive ModeでのIPsec/IKE接続でNATトラバースル設定を行った場合、NAT装置が存在しなくてもNATトラバースル機能が有効になる。 |
| 6 | V35.00～V35.02 | IKEv2およびDPD機能を併用し7日以上連続運用すると、コンソール操作や設定変更が出来なくなったりすることがある。 |
| 7 | V35.00～V35.02 | 同一装置内でIKEv1およびIKEv2を混在して設定すると、一方のIKEネゴシエーションが失敗する。 |
| 8 | V35.00～V35.02 | IKEv2にてESP+ESN設定が有効で、かつ、フラグメントが発生する通信環境の場合、IPsec通信が失敗することがある。 |
| 9 | V35.00～V35.02 | IKEv1設定時にcommit-bitを使用したネゴシエーションできないことがある。 |
| 10 | V35.00～V35.02 | IPsec通信でNATトラバースル機能が有効な時に、IKEネゴシエーションが失敗する場合やIKEネゴシエーション完了後にIPsec対象の通信が正常に行えない場合がある。 |
| 11 | V33.00～V35.02 | show tech-suppotコマンドを実行すると、出力内容が途中から文字化けして表示されることがある。 |
| 12 | V35.00～V35.02 | シェーピング機能を併用する場合に転送遅延が発生し、転送レートが低くなる。 |
| 13 | V33.00～V35.02 | IPsec/IKE接続において、相手装置(Windows XPまたはWindows Vistaなど)よりIPsec/IKE接続の接続と切断を繰り返し行われた時、装置が再起動する場合がある。 |
| 14 | V33.00～V35.02 | 接続先監視機能利用時に、疎通可能状態にもかかわらずセッション断が検出される場合がある。 |
| 15 | V33.01～V35.02 | IPトンネルの外部IPヘッダにオリジナルパケットのIPヘッダ部のTOS値がコピーされない。このためIPトンネルの外部において本来のIPパケットのTOSを使用したQoS等の機能が使用できない。 |
| 16 | V35.00～V35.02 | IKEv1とIKEv2が混在する設定でIPsec/IKE接続を行った時、IPsec/IKE通信ができなくなったり、装置が再起動することがある。 |
| 17 | V35.00～V35.02 | IPsec/IKE接続する環境にて接続先監視設定の動的定義反映を行った場合に、装置が再起動する場合がある。 |
| 18 | V35.00～V35.02 | IPsec/IKE接続する場合にEXPIRED状態のIKE SAが残り続け、IPsec/IKE通信ができなくなる場合がある。(IKE SAのEXPIRED状態はshow ipsec saコマンドで確認することができる) |
| 19 | V34.02～V35.02 | 基本NAT使用時、ICMP通信が遮断される。 |
| 20 | V33.00～V35.02 | 特定ポート番号のパッシブモードのftpデータセッションがIPフィルタで遮断され、ftp通信が失敗することがある。 |
| 21 | V33.00～V35.02 | PPPoE接続時、show trace pppoeコマンドを実行すると装置が再起動する場合がある。 |
| 22 | V33.00～V35.02 | remote ip address local設定とloopback設定、または、template着信したaaa user ip address local設定とloopback設定、または、remote address local設定と他のremote address remote設定のIPアドレスが重複している場合、装置が再起動することがある。 |
| 23 | V33.00～V35.02 | スケジュール機能と時刻同期クライアント機能を併用すると、メモリ使用量が増加し続ける。 |
| 24 | V35.00～V35.02 | lanインタフェースがリンクアップ時にGratuitous ARPが送出されない。 |
| 25 | V33.00～V35.02 | SNMPマネージャーからのifIndexを引数に持つMIBグループMIB取得要求処理時に装置が再起動することがある。 |